

平成 29 年 5 月月例記者会見

会見記録

1. 記者会見内容について

【 説明 】

【地域エネルギー会社の名称を募集します！】

市長 地域エネルギー会社でございますが、3月の議会で出資金につきましての予算をお認めいただきまして、本年7月頃に設立を予定をしておりますこの地域エネルギー会社、自治体電力という言い方もしますが、色んな形で展開していきたいと思っております。詳細につきましては添付資料の方で概要をまとめております。また、こちらの名称を募集をしたいと思っております。

自治体がこのエネルギー事業に参加をするっていうのは、ただ電力とかエネルギーを売りたいという事ではございませんで、それを1つの切り口にしていろんなコミュニティサービスでありますとか、市民とか契約者の方の声を聞いてよりよい地域にしていくというためのものでなければいけませんので、その第1歩ということで、まずは名称から募集をしていきたいというふうに思っております。

また、エネルギー会社の概要中身など7月に向けての進捗等ございましたら、後ほど担当課にご質問いただければと思います。それが1つめです。

【生駒市医療介護連携ネットワーク協議会】

市長 2点目は生駒市医療介護連携ネットワーク協議会でございます。一言で申し上げると、地域包括ケアシステムというものを生駒市において効果的に意味のある形でしっかりと具体化していくために、生駒市はもちろんですけれども、医療関係の施設、介護・福祉関係の施設他、薬剤師会とか等々もそうですが、関係者が一堂に会するネットワークを去年の3月に立ち上げ、6月に1回目の大きな会合をしております。その2回目の会議でございます。大きな会議としては年に1回、私も入ってやっておるんですけども、部会が二つございまして、資料に下の方にありますが、在宅医療介護推進部会というものと認知症対策部会というものを先行して部会としてやっております、こちらは非常に熱心に数度会議をしていただいております。

28年度だけ見ましても在宅医療の方はすでに「在宅医療介護連携の方針」というものを取りまとめたいたりとか、そもそも論としてどういう医療機関があったり、どういう介護施設・福祉施設があるのかとか、医療・介護・資源集という言い方をしますが、そういうものの完成をさせたりとか、入退院する時のルール作り、あとは医療施設から介護施設・在宅の方に行く時のつなぎこみのルールとか、そういうようなものを色々と検討していただいております。

認知症対策部会の方につきましては、何件か取材もいただきましたけど認知症関係のフォーラムでありますとか、関係する職種の皆様の連携した研修会でありますとか、初期集中支援チームというものを立ち上げたり、色々な具体的な動きがこちらにも出ております。そのような動きの報告とか、29年度はど

ういう風にしていくのかという大きな方針を議論するために、今回第 2 回目の医療介護連携ネットワーク協議会というものを 5 月 27 日土曜日の夕方に行うということでございます。

よろしく、ご取材いただければと思います。

【片手のピアノリサイタル】

市長 3 つめの片手のピアノリサイタルでございます。音楽関係のイベントは、非常に昨年度も大成功と言っていいと思いますが、市民の皆様のを非常にいただきまして、素晴らしいイベント・音楽祭になりましたし、先日も市役所でコンサートをしていただいたりと非常に色々な取り組みが進んでいますが、こちらのイベントは市の主催という形でやります。片手でピアノを弾かれるということ、ジストニアというご病気ですとか、色々な理由で両手でピアノを弾くことが出来ずに片手で弾くというような方をお招きをしたピアノのリサイタルでございます。6 月 11 日の 2 時からでございます。また、是非こちらの方も取材たまわれればというふうに思っております。岡田さんという女性の方は生駒市在住の方でございます。

【「本棚のWA」第 1 話『地ビールは好き』を開催します】

市長 続きまして 4 つめの「本棚の WA」です。先日もこの図書館「本棚の WA」という取り組み自体につきましては、前回ご紹介させていただきましてけれども、この度、6 月に具体的にその第一弾ということで地ビールの関係の会を行います。

6 月 17 日土曜日 18 時から駅前図書室でやりますが、ご案内の方もいらっしゃるかと思いますけれども、生駒市にゴールデンラビットビールという地ビールがありまして、色々奈良の地元こだわって奈良で取れたお米とかそういうものを使ったりとか、地産地消という形でビールを作っておられます。

もう 1 つは、この市橋さんという方ですけども、現職は製薬会社に勤めておられまして、その傍らで会社の制度を活用してダブルワークという形でこの地ビールの事業をしておられます。奈良市の方のビジネスコンペでも賞を取られています。地元・地域の活力作りというような意味でも副業促進とかダブルワーク・働き方改革というものの意味でも非常に面白い活動をしておられる市橋さんと呼んで地ビールも飲ませていただきながら、その辺りのお話を聞くとか、関係している本を図書館の方で紹介して読むとか、最近地ビールの関係の面白いベストセラーが出てくるということですので、その辺の話もあるかと思います。私も行かせていただきたいと思っております。

前回申し上げましたけど、一番下にありますようにワークショップを去年やったところから出て来たアイデアで、ご提案してアイデアをもらったんですけどもアイデアを出してをいただいた方が実際、今、企画メンバーとして入っていただいております。「こんな面白いアイデアがあるから生駒市役所やってよ」ということじゃなくて、提案した人たちが企画・実行に回っていただいて、この市橋さんを引っ張ってきていただいたりとか、また音楽とか色々な形でまた 2 回目 3 回目やっていきたいと思っております。そういう企画から市民が入っているということも 1 つの PR ポイントでございます。是非、ご取材たまわりますよう、お願いを申し上げます。

【新しい働き方を考えるシンポジウム】

市長 5 つめが「新しい“働き方”を考えるシンポジウム」ということで、6 月 4 日の 14 時からコミ

ユニティセンターで開催をいたします。

ご案内のとおりイコマドですね、テレワークインキュベーションセンターが出来ておりますけども、そこを拠点にして生駒市の女性就業率が低い、でも非常にお力があり、面白い事をやっておられる女性の方がいらっしゃる。会社を退職された年配の方もたくさんいらっしゃるというような中で、もちろん学生もそうですけれども、色々な働き方をイコマドを拠点としてやっていきたいと思っております、その1つとして「新しい“働き方”を考えるシンポジウム」をやります。これからの働き方っていうのは単に9時から5時まで平日働いてということも1つですし、もちろんパートタイムで働くということもありますし、テレワークというやり方を使ったりとか、様々な働き方があります。先程の副業ということでダブルワークというのもありますし、1つの仕事を色々な方で分けて対応するというものもあります。様々な働き方があるんですが、そういうような話を生駒市で色々考えてもらうために市民を招いてシンポジウムをするということでございます。

6月4日ですけども、下の基調講演のところに書いておりますように内容の部分ですが、ロート製薬(株)広報 CSV 推進部副部長の矢倉さんという方が講演をさせていただきます。実は、この矢倉さんという方がすでに生駒市政でお世話になってる方で全国大会やってるビブリオバトル、生駒市のビブリオ倶楽部の代表もやっておられる方でございます。その方が、たまたまロート製薬で副業促進・推進というような事をやっておられる方だったという、そういうご縁で。さらに言えば、先ほどの市橋さんもロート製薬ですので、まさに矢倉さんが力を入れてやっておられる副業促進という制度を適用してこういう地ビールの活動をしておられるということで、全部非常に有機的につながって非常に面白いストーリーだと思います。生駒市ならではのなと思いますので、その辺りの話も含めまして、是非こちらのシンポジウムもご覧いただければ大変ありがたいかなと思います。

この矢倉さん以外に、(株)ワイズスタッフのテレワークの第一人者であります生駒市ご出身の田澤由利さんのお話もありますし、それを踏まえて矢倉さん・田澤さん、あとは若者代表として小澤さんという方3人のトークセッションがございます。

これが6月4日のシンポジウムでありまして、このシンポジウムが一番後ろに付いてますジモト塾というのが入ってると思いますが、これの第一回目を兼ねています。シンポジウムを1回やってお終いというようなシンポジウムがよくありますけど、とてももったいないので生駒市では、今ご年配で退職された方を地域の活動に取り込むということで地域デビューガイダンスというのをやっておりますけれども、このジモト塾はどちらかと言えば、年齢制限は特にはないんですが、比較的若い方が学生もそうですし、現職世代、先程の市橋さんのような現職しながら何か地域の事やりたいなあと、それはビジネスであっていいしボランティアみたいな事であっていいし、何でも良いのですが、そういうような地元の事を知って、関心を持って何か、自分がやってる事プラス地元の活動しようと比較的若い世代の人をターゲットにした、そういうきっかけ作りとなるような講座を10回コースで考えております。裏面に10回全部書いてあるんですけども、その第1回目としてこのシンポジウムを位置付けております。残りの9回につきましては、このチラシの裏の所を見ていただければというふうに思います。

【「キッズいこまち探検隊」参加者を募集】

市長 6つめです。まちづくり体験プログラム「キッズいこまち探検隊」というのを書いております。これは新規事業でございます。予算の時も少しお話をしたと思いますけれども、二つ意味があって、子

どもたちが生駒というまちを誇りを思ったり、生駒の事に関心を持ってもらうという子どもたちに対するシビックプライド、まちを誇りに思う気持ちを育てる事業。かつ、今、生駒市は教育の改革に非常に力を入れておりますけども、教育改革の一環としてまちの事をやる中で、具体的にはもったいない食器市をやってくださっているワンディッシュエイドの力を借りて、彼らの彼女らの活動の中に子どもたちが参加して実際に自分たちで当日のもったいない食器市を手伝いしたりとか接客したりとか、どういふうにすればお客さんと上手くコミュニケーションが取れるのかとか、そういうようなところを色々考えて、体験をした上で自分たちで何かイベントを出店するものです。

一番下のところに活動スケジュールが書いてありますけど、7月・8月の夏休みでもったいない食器市を経験する。接客等を実際にやる。その経験を生かして9月・10月にひみつ会議と書いてますけども、自分たちが今度、高山サイエスタウンでお祭りが秋にありますけど、そこにブースを出す。そのブースに、もったいない食器市で体験をした事も踏まえて、どういふうなブースを出せばお客さんに来てもらえるのか、接客が上手にいくのかというようなことを考えて実際にイベントにブースを出してやってみるといふうなことです。体験型で非常に子どもたちのアクティブラーニングといふうか、実際に地域・人々に触れながら自分の頭で考えてどういふう風にしていけば良いのかといふうのを形にしていくような、そういう学びの機会だと思っております。

今回、初めてですけども非常に面白いプログラムになるかなと思ひますし、是非、7月・8月子どもたちが奮闘しているところを皆様にご取材いただければ大変励みになるかと思ひております。詳しくは、いこまの魅力創造課の方にお問ひ合わせ下さい。

【生駒市民吹奏楽団結成記念コンサート】

市長 最後になりますけども、生駒市民吹奏楽団の結成コンサート、ついに結成記念のコンサートが6月25日たけまるホールで行われます。コンサートのチラシを配ってると思ひますが、ご案内のとおり3つチームが出来ておりまして、元々あった「いこまブラス」、そして「いこまファミリア吹奏楽団」「生駒ウインドオーケストラ」3つございます。その3つが揃い踏みをして、コンサートを行います。生駒市の消防職員もボランティアダンスチームで一緒させていただくといふうことでございますので、今、一緒に練習をしていると聞いてますけど、非常に総勢150名近くの方がいらっしやいますので大きなコンサートになるかと思ひます。

本当にゴールデンウィークもないぐらい皆さん頑張っ、この6月に向けて練習していただいております。ぜひ、この立ち上げの結成コンサートの方、お越しいただければ幸ひでございます。

長くなりましたが、私からは以上でございます。

【質疑応答】

【地域エネルギー会社の名称を募集します！】

記者 地域エネルギー会社の名称募集ですが、奈良県で自治体で作るのは初めてといふうことですが、実際、パートナー契約をしている大阪ガスさんが入られて一緒にされるとのことなんですけど、実際の運営の方は7月に設立されて、地域エネルギー会社の方で電力を供給してほしいといふう市民を募られていくといふうことになるんですかね？

市長 まず、夏に立ち上げてしばらくの間は公共施設、市役所を中心として公共施設への供給といふう

ものが先行します。その後、落ち着いてきたところで、色々、民間事業者さんでありますとか一般家庭への供給というものを展開をしていくということで、今のところ、概要の資料の方にも少し書いておりますけども、一般家庭への供給というのは2019年以降になる予定ではございます。

ただ、先程申し上げたように、地域エネルギーということで自治体も関与してやらせていただく以上は、もちろん、公共施設・民間事業者さんへの供給もそうですけど一般家庭にも供給してその中で先程申し上げたような色々な電力エネルギー以外にもコミュニティサービスみたいな事でもありますとか、主に福祉部門とか地元での物の購買・消費というものにつなげるような地元企業・商店街なんかの活性化とかもあるでしょうけど、そんな所に上手くつなげていきたいなと思ってますので、少し時期は2年遅れぐらいになるんですかね、一般家庭の方も供給は考えていきたいというふうに思っております。

記者 今、ご家庭で太陽光の発電設備を乗せてらっしゃる方の電力も買われていくということですけども、実際に太陽光発電の設備を設置しようと思ったら200万円ぐらいはかかるかなと思うんですけど、なかなか、おいそれと広がっていくようなものではないかなと思うのですが、将来的に大阪市さんよりも依存部分というのが高くなっていくのかなと懸念があるんですが。

市長 おっしゃるとおりで、生駒市はすごい大きなメガソーラーがドカンとあるわけでもないのに、そういう意味では供給面というのは1つ課題です。生駒市は大体日照時間が全国平均くらいなんですけども、すでに家の屋根に太陽光パネルを乗せてくださってる方の割合が全国平均の1.3倍ぐらいあって、非常に環境意識の高い市民の方が居られて、パネルも今たくさんついていますので、そういう所から少し、若干ですけども高めに買取させていただくようなことで、市民の皆様から電気も一部いただいて、それを市民の方に利用していただくような流れはこれからも作っていききたいと思います。

確かに、設置費用はかかるんですけども、設置費用も太陽光のパネル自体も少しずつ単価も下がってきているところもありますし、生駒市では補助額を少しずつ見直してるところもありますけども、設置に対しての補助もしておりますので、設置をして電気代が安くなるとか余った分は売れるということで、イニシャルコストはかかるけど補助金を活用して、かつ、その後の電気代の節約とか余ったものは地域エネルギー会社に売れるということで。比較的、環境意識の高い生駒の方、これから新たに太陽光発電しようかという方まだいらっしゃると思いますので、市としても設置も支援しますし、買取の方でも支援をして、少しでもそういうふうに地元の太陽光・再生可能エネルギーを使いたいというのが1つです。

ただ、大阪ガスの方から融通していただくようなエネルギーというものが、やはり柱になっていくというのは少なくとも当初はそうだと思うんですけども、地域エネルギー会社、本当に色々なやり方があるって、生駒市の中で別にメガソーラーがなくても例えば非常に風力発電がたくさん持ってる自治体とか、太陽光発電をすごくたくさん持ってる自治体があって、逆にそういう所で「エネルギーを売りたいな」というような自治体が全国にありますので、そういうところから調達して市内で売っていく。もちろん市内で作ってくれた電力というのは地産地消という意味では一番良いですけども、再生可能エネルギーというものを考えれば、例えばこの辺り・近辺でもそういう大規模なソーラーを置いている自治体さんとか、もしかしたら事業者さんもあるかもしれません。そういう所から、一部調達するという事も考えられるとは思いますが。コスト見合いとかあるんですけども、そういうことも考えていきたいと思っております。この辺り、色々コミュニティサービスどうしようとか、我々も福岡県みやま市という所が非常に先端的にやっています。この間、視察も行ってきたんですけども、また細かい部分、ご質問ござい

ましたら、環境モデル都市推進課の課長とかにご質問いただければと思います。

記者 商工会議所はOKは出ましたでしょうか？

市担当者 今、外部で協議は順調に進めていただいております。現時点で最終的に意思決定いただいておりますので、お名前を出しておりませんが協議は順調に進めております。

【「チャレンジ商品」の出品者を募集】

記者 「チャレンジ商品」の出品の件なんですけども、どういったねらいというか、目的というか。

市長 ねらいは先程少し申し上げたんですけど、生駒駅の北口にテレワークインキュベーションセンターというのを設置をしまして、女性だけではないですが、女性の就業率が生駒市は低いという課題がありますので、そのいろんな生駒の女性のマルシェみたいなこともあったりとか、非常に女性の方の活動も活発になってきてますので、それを例えばイベントでそういう形でご活躍いただくのも良いんですけども、さらにそれを一歩進めてビジネスとして具体化していく一つの支援策としておちやせんという生駒の特産品を販売してる所がございますので、そこに期間限定で置いてもらって、どのくらい販売があるのかとか、逆に販売するに当たっての課題は何かというようなことをお客さんからアンケートを取ったりとか、マーケティングなんかをお手伝いすることで、そういう向上性の方、後はもちろん女性に限らず年配の方でも男性の方でも学生でも良いのですが、そういうような形で「チャレンジ商品」として置いて、色々活動されてる方が次ビジネスとして、そういう物サービスの販売をしていく、当初していこうということがございます。生駒市の働き方改革というと色々な切り口があるんですけども、実際に女性の方・年配・退職された方・学生、色々な形で生駒市で新たにビジネスをしていきたいと、例えば、そういう販売の目途がついたら市内の色々な小売店でお店を閉じられたりしているような空き店舗なんかもありますので、そういう所に入っただけのこともあるでしょうし、そんな形の流れを作っていく一つのきっかけだといことと考えております。

2. その他

【奈良市長選への山下前市長の出馬表明】

記者 先日、奈良市長選挙に山下前市長が立候補の表明されたんですが、仲川現市長もされたということですが、改めて小紫市長から山下前市長が生駒市政に果たされた役割または評価された部分を聞かせてください。

市長 山下前市長の9年間のうち私は3年半副市長としてご一緒させていただいておるんですけども、生駒市役所のある意味どん底状態から様々な改革をして、生駒市の財政ももちろんですけども、色々な問題点を大きく舵を切って改革を形にされたという功績は生駒市にとって非常に大きな9年間だったと思っています。もちろん山下前市長が残した課題とか、非常に大きな改革を残したということの歪みというか、逆の目から見た課題というのは当然出てきたりはしてますけども、トータルで見た時に山下前市長が生駒市政に9年間やってきたことの功績というのは非常に大きなものがあるというふうには思います。

記者 逆の目から見た歪みというのは具体的に何か？

市長 色々あるんですけど、例えば生駒市の非常に大きな課題だったのが契約とか入札とか、それが実際に生駒市の色々な問題の一つの大きな原因だった訳で、その部分で入札改革とか契約の在り方み

たいなのを改革していったって、それで非常に落札率が下がったり、財政状況は非常に良くなったという部分もありますけど、同時にやはり市内事業者をどのように活性化していくかというか、市内の事業者と市との付き合い方ということで、災害対応とかまちのために市内の事業者さんとの連携というのも当然考えていかないといけません。財政面そして契約・落札率等の契約から見た側面というものを、やはり山下前市長は当然重視せざるを得なかった状況で市政をスタートたわけですが、それをもう一度改めて考えた時に、市内の事業者さんがより力を発揮していただくようなやり方があるかとか、その所は色々ともたまた考えていく部分もあります。全く元に戻すことではもちろんなくて、山下前市長が大きく改革によりプラスを出したところではありますけど、それによって出てきた課題というのも当然あるわけで、それを少し軌道修正したりとか、そういうようなことで私の仕事だと思ってます。市立病院の話とか高山の話とか課題は色々あるんですけど、それは時間軸というか山下前市長時代に取り組み始めたけども、当然長いスパンで考えていかないといけない大きな課題ありますので、そういうものはしっかりと形にしていくのはその後の私の仕事だと考えます。

記者 山下前市長が奈良市長選に出馬表明したことについての小紫市長の受け止めと言いますか。

市長 そうですね、難しいんですけども。現職の仲川市長とも当然市長会とか色々な所でご一緒しますし、細かい部分はもちろん色々私も山下前市長も仲川市長も違うのですが、色々改革を進めようとか新しい事に取り組んでいこうというようなことを仲川市長からも聞いてますし、山下前市長も当然先程申し上げましたように功績のある人です。今まだ新しい人が出てくるかもしれませんが、今、表明しているのが山下前市長と仲川市長ということで、なかなか気持ちとしては複雑な部分があるというのが率直なところかなと思います。非常にお二人考え方の近いところもありますし、奈良市のことは詳しくは私は分からないところもありますけれども、仲川市長が取り組んでこられて良くなってきている部分というのも当然あるでしょうから、その中でお二人が表明している、戦うという事になると。なかなか難しいなど、複雑な気持ちというのが正直なところですよ。

記者 山下さんから応援してくれと、出るから頼むでというような声かけはあったんですか？

市長 いえ、ないです。まだ、特に具体的に山下さんも仲川さんもないんですけども、どのような形で奈良市政を頑張るのかという、まだマニフェストみたいなものも出てませんし。そういうようなものも見させていただきたいと思えますし、もちろん話がまだないので私がどうこうって言うことでもないんですけども。

記者 山下氏のホームページをご覧になりましたかね？自分の実績というのをグラフで書いて、自分の時は人口が増えて、自分が辞めてから少し停滞したみたいに。住みよさランキングも自分の時は上がって停滞しているみたいな書き方をしてるんですね。前と後ろの市長はちょっとあんまりで、自分が有能だったと印象操作をしているんですよ、すごく。たまたま京阪奈新線が出来た時と重なっただけの話なんです、実は人口が増えてのは。そういう印象操作をされてることについて、山下さんが辞めた後に人口が停滞したかのような印象を与えられている現市長としては何かコメントはありますか？

市長 そこまで私は思わなかったですけど、確かに人口は横並び横ばいぐらいになってて、ちょっと年によっては若干減ったとかいうことではありますし、住みやすさランキングみたいなものは私が就任して以降、ちょっと下がりましたが、あのランキングをとにかく1位にしようと思って私は市政やってるつもりもないですし、それは前の山下前市長もあれを1位にしないとと思ってやってたわけではないと思います。今回選挙に出られるというところで、頑張って自分の実績を見せたいというのはあると

思いますけど。人口のところ、あれは事実だと思いますし、関西のあのランキングも別に間違っただけを書いているわけではないですし、実際、私になってランキングが下がっているのは事実ですから、あれが私が市長になってすごく悪くなったという表現だとはいうふうには私は思いません。自分の実績を強調したいというのはそれは誰でもあると思うし、そうなんやろうとは思いますが。後任を批判するという意図は私は感じていません。私も頑張ってますので。

記者 本当の実績を強調したら先程おっしゃってた入札改革だとか要望の記録制度をやったとか、そういう事を記述すればいいんですけど。なんかね、あの人らしいですけど。

市長 分かりやすさの部分とかもあるでしょうし、私は今おっしゃったようなところの実績というのはとても高いものがあったと思いますし、ただ、数字的に表現できるものというのの分かりやすさというところからまずは、入ったということだと思います。それは理解できるというか、戦略としては当然そうだろうなと思います。

【衆議院の区割り】

記者 関連しますが、衆議院の区割りで、正式決定ではありませんけども、生駒が1区に入ると。これまでなら2区で一番大きな自治体だったわけですけども、1区になると奈良市の付け足しみたいな形になるという受け止めが結構あるんです。そういう生駒市のリーダーとして、今回の区割りまだ正式決定ではありませんけども、どう思われているかというのがあれば。

市長 衆議院選挙の政治的などこうというのは今私コメントする立場にもないし、どうなるかまだ決定ではないですけど、生駒市の人口規模は奈良市の3分の1のぐらいの自治体なんですけども、様々な取り組みとか、特に市民・協働のまちづくりとか住宅都市としての色々な教育とか市役所の取り組みですね、奈良市だけじゃなくて関西の住宅都市や全国的にも「やはり関西に生駒市ありやな」「全国に生駒市ありやな」と言ってもらえるようなまちづくりを目指してやっているので。もちろん人口規模ではどう逆立ちしても勝てないところありますけど、生駒市というのは奈良市の付け足しというかおまけということでも全く無いと思いますし、逆に生駒市の取り組みが奈良市に住んでおられる方とかに非常に高く評価をされてる部分というのも、実際に奈良市民の方からもたくさん聞きますし。自治体としては規模は小さいかもしれないけれども、生駒市独自の非常に先進的な取り組みをしっかりとしていきます。これから奈良市長選がどうなるか分かりませんが、新しい市長とそういう形で切磋琢磨し、教えてもらいながら、逆に教えてさしあげながら、しっかりやっていくということだと思います。

記者 これまでだと、高市さんが地元で事務所があって、生駒市の意向が国に対して届きやすかったと思いますが、今度は奈良市が入って、どうしても奈良市の声を国会議員も聞くんじゃないかと、馬淵さんになかなか国会は今からというのも大変だろうからとか、そういう声が生駒市の声が国会に届きにくくなるんじゃないかという危惧はいかがですか？

市長 そういう意味はもちろんあると思います。なので、そこはやっぱりどういう方が衆議院議員になれるかというのは、またありますけれども、どなたがなられてもそこは生駒市の取り組みというようなものをしっかりとお伝えをして、当然、国の関係のことは私も自分でも動くところもありますけど、国会議員の方のお力を借りてというのは当然ですので、そこは事務所どうこうというような物理的な話はもちろんあると思いますが、生駒市の頑張っていることとか課題とかお力借りるとか、お伝えしていくのはそれは私の一つの大きな仕事だと思います。どなたがなられてもしっかりと連携取らせていた

だきたいというか、色々と良い関係を築かせていただくように努力したいと思います。

(了)